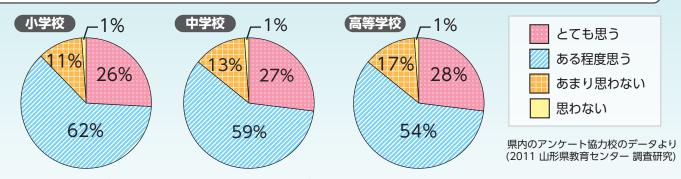
ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業がくりハンドラック



アンケート調査から

下の円グラフは、平成23年度に県教育センターで、県内小学校教員169人、中学校教員208人、高等学校教員304人を対象に実施した「ユニバーサルデザインの学級づくり・授業づくりに関する調査(アンケート)」の結果の一部です。どの学校種においても、8割以上の教員が、以前に比べて指導に困難さを感じる児童生徒の数が増加したと思うと回答しており、日頃の指導に課題を抱えている状況がわかりました。

Q 学級づくりや授業づくりにおいて、指導の困難さを感じる児童生徒が増えてきていると思いますか?



そこで、本ハンドブックでは、「すべての児童生徒がわかる喜びや学ぶ意義を実感できるために、配慮を要する 児童生徒には『ないと困る支援』で、他の児童生徒にも『有効な支援』を、学級の実態、教科の特性、指導場面など に合わせて工夫した授業づくり」(ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり)を目指し、小学校・中学 校・高等学校における授業改善のための7つの視点を提案します。



小・中学校の通常の学級 発達障害の可能性のある 児童生徒

通常の学級に在籍する発達障害の 可能性のある特別な教育的支援を 必要とする児童生徒に関する調査 (2012 文部科学省)

配慮を要する児童 生徒に対して、適切

な支援や配慮を行い たい!

その一方で、学級のすべて の児童生徒に、基礎基本的な 知識・技能、思考力、判断力、 表現力等を育てたい!

生きる力の育成の重視

特別支援教育の重視



このような課題に対応するために

段階的な

特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに対応

第2次支援(学級での個別の配慮) 配慮を要する児童生徒のニーズに対応

第**1次支援**(学級でのUDの視点を取り入れた授業

すべての児童生徒のニーズに対応

すべての児童生徒が わかる喜びや学ぶ意義を 実感できる授業を目指して! ユニバーサルデザイン(UD)の教育

UDとは、「すべての人のためのデザ ン」を意味し、年齢や障がいの有無な どにかかわらず、最初からできるだけ多 くの人が利用可能なデザインを行うこ とです。

これを教育に当てはめ、「すべての児 童生徒にとって『わかる、できる』を保障 する授業をデザインすること」を目指し ています。

UDの7つの視点を、 7色の色鉛筆でイメー ジ化しました。

まず、学級づくりの3 色で、授業づくりの土 台をデザインします。

そして、授業づくりの 4色で、実際の授業づく りを進めるための手立 てをデザインします。

どの色鉛筆をどれくらい使うか は、学級の実態や教科の特性、授業 のねらいなどに合わせて考えます。

2

3

UDの7つの視点を取り入れた授業づくり



こんな学級・こんな授業にしていきたい!

■インデックスをもとに、7つの視点のページを開いてみましょう。 学級づくりや授業づくりの上で活用してみたいと思う視点から始めてみましょう。

学級づくり	インデックス
□先生や友だちの話をしっかりと聞くことができる学級にしたい。…	2345
□友だちとよりよい関係を築ける学級にしたい。	123
□進んで活動に取り組める学級にしたい。	1234
□一人一人が安心して落ち着いて過ごせる学級にしたい。	123
□目的意識を持ったまとまりのある学級にしたい。	2 3
□忘れ物の少ない学級にしたい。	1 2 4 5
□思いやりを持って支え合える学級にしたい。	23
□問題やトラブルの少ない学級にしたい。	1235
□困ったことを相談したり助け合ったりできる学級にしたい。	23
□学びやすく生活しやすい学級にしたい。	1234
□整然としたわかりやすい教室環境にしたい。	1 2
□児童生徒の実態把握を大切にした学級経営をしたい。	2 3
授業がくり	インデックス
授業がり □最後まで集中して取り組める授業にしたい。	インデックス 1 2 4 5
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1245
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。 □学習内容をわかりやすく理解させる授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7 1 3 4 5
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7 1 3 4 5 3 4 5
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7 1 3 4 5 3 4 5 2 4 6
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7 1 3 4 5 3 4 5 2 4 6 3 4 5 7
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7 1 3 4 5 3 4 5 2 4 6 3 4 5 7 3 4 5
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7 1 3 4 5 3 4 5 2 4 6 3 4 5 7 3 4 5
□最後まで集中して取り組める授業にしたい。	1 2 4 5 4 5 6 7 1 3 4 5 3 4 5 2 4 6 3 4 5 7 3 4 5 5 6 7

WALL 教室環境

教室は、日々児童生徒が生活し、学習する場所です。しかし、学級の実態に合わせた教室環境に配慮しないと、学びにくく生活しづらい場所になってしまいます。どの児童生徒も安心でき、落ち着いて過ごせるようにするために、学習用具などの整理整頓の仕方、児童生徒の座席の位置、掲示物などについて配慮し、整然としたわかりやすい教室環境になるように工夫しましょう。

🥶 児童生徒の困っている状況 🔝 UDの視点による支援や配慮のポイント

教室の整理整頓の仕方を決めて指導している。
 (学級のもの・個人のもの)



学習の準備ができない、すぐに活動に取り組めない、授業に集中できない

視覚刺激に影響を受けやすい児童生徒は、雑然とした環境が苦手です。また、何をどのように整理整頓したらよいかわからない状況は、居心地が悪く不安を感じさせます。

様々なものについてきちんと置き場所を決め、わかりやすく整理整頓の仕方を指導することが必要です。学級全体にとって集中しやすい教室環境をつくりましょう。

<整理整頓の仕方 例>

- ■学級や個人のもの、提出物について、何を、どこ に、どのように置くのかを決める。
- ■言葉の指示だけでなく、絵や写真による整理整頓 の見本を示す。
- ■整理整頓の表示では、定着状況に応じて、文字の 表記や色などを変え、視覚的な効果を図る。
- ■教科ごとの色を決める。ファイルや時間割の色も 統一する。



1 4	月	火	水	木	金
1	音楽 I 美術 I	保健	英語I	国語総合	科学と 人間生活
2	体 育	数学Ⅰ	国語総合	数学Ⅰ	体 育
3	現代社会	情報A	家庭総合	音楽 I 美術 I	現代社会
4	数学Ⅰ	英語I	体 育	情報A	家庭総合
5	科学と人間生活	ベーシック	ベーシック	総合的な学習の時間	英語I

② 児童生徒の実態に合わせた座席の位置を決めて指導している。



学級が落ち着かない、座席の近い児童生徒同士のトラブルがある、 隣同士や班の話し合いがうまく機能しない

学級担任

教師の意図を明確にした座席の位置を決めることで、学習効果はもちろん、様々な児童生徒のかかわりが生まれ、学級全体の社会性が養われていくことが期待できます。「いつも一人一人を見守っています。」という教師のメッセージを送ってみましょう。

<座席の位置の配慮 例>

- ■視力や聴力、その他身体的な面で配慮を要する児童生徒の座席を確保する。
- ■配慮を要する児童生徒には、教師やモデルとなる友だちの近くの座席を検討する。
- ■児童生徒同士の関係を考慮して班を編成する。

教科担任

学級の実態や学級担任の意図を十分に把握した上で、教科の特性(特別教室のつくり、学習内容や活動など)に合わせた座席の位置を考えましょう。



学習時の視覚刺激の量に配慮している。 **(3**) (前面の黒板とその周囲、壁面の掲示物の精選など)



板書に視線が向けられていない、授業に集中できない

学級担任

視覚刺激に影響を受けやすい児童生徒にとって、必要以上の視覚情報は、どこ に注目したらよいかがわかりにくく、集中して学習できない要因になります。 余分な視覚刺激をできるだけ少なくし、大事な視覚情報がわかりやすく伝わる ことで、学級全体にとっても、授業への集中と理解の向上が図られます。

<視覚刺激の量の配慮 例>

- ■教室の掲示物を精選する。特に、黒板とその周囲、 壁面の掲示物など。
- ■過度な視覚刺激となる掲示物の色使いに配慮する。

| 教科担任 |

学級の実態を十分に把握した上で、教科の特性 (特別教室のつくり、学習内容や活動など) に合わ せて、掲示物の精選などを行うことが大切です。



一週間や一日の予定などのスケジュールを見やすく掲示して指導している。 **(4)**



行動が遅れる、積極的に活動していない、忘れ物が多い

□ 一週間や一日の流れ、それぞれの時間に準備 するものが見える形で示してあると、言葉の指 示だけでは取り組むことが苦手な児童生徒に とっては、わかりやすく安心できる状況になり ます。

学級全体にとっても、スケジュールの確認が できるので、忘れ物が減り、授業への意欲を高 め、積極的な取組みにつながります。

提示する情報が多くなると、逆に混乱させて しまうこともあるので、目的が済んだら、すぐ に消すように心がけましょう。

11
')
* TONC
h
IL Lat
sychat
ページ

急な連絡や予定の変更は、視覚的にわかりやすく伝えている。 **(5)**



急な連絡や予定の変更で不安を感じている、変更の指示をしても伝わっていない

急な連絡や予定の変更は、自分の見通しの修正を迫られ、新たな課題に不安 を抱く要因になり、誰もが心乱れるものです。

そうした修正への対応を苦手とする自閉的傾向の児童生徒に対しては、改め てわかりやすく情報を提供し、安心感を持たせることが必要です。

学級全体にとっても、混乱を最小限におさえ、児童生徒との信頼関係を築く ことにつながります。

<急な連絡や予定の変更の伝え方 例>

- ■言葉の指示だけでなく、板書や掲示などで新しい情報 を伝える。
- ■情報量が多い場合は、紙面に印刷して配付する。



温屋 2 学習や生活のきまり

様々な個性を持つ児童生徒が、安心して学校生活を送ることができる学級にするた めには、一人一人に自己肯定感を育んでいくことが大切です。日々の学習や生活の中 で、お互いの取組みのよさを認め合える経験を積ませていくことが必要になります。 具体的にどんなふうに取り組んでいけばいいのか、それを学習や生活のきまりとして わかりやすく示すことにより、一人一人が安心できる状況をつくり出していきます。

一・児童生徒の困っている状況 国 UDの視点による支援や配慮のポイント

学習活動のきまりをわかりやすく定めて指導している。 (「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」など)



話が聞けない、発表がうまくできない、ノートがうまく取れない

配慮を要する児童生徒にとって、何をどうしたらよいかわからない学習状況は、居 心地が悪く不安を感じさせます。また、集中力や意欲を低下させ、学びを困難にしま

言葉の指示だけでは伝わりにくい児童生徒に対しては、学習活動のきまりをわかり やすく伝えることが必要です。学級全体にとっても、必要なきまりを振り返りやすく なるため、学習活動の質の向上が期待できます。

小学校では低学年のうちから、中学校、高等学校では1学 年の早いうちから、継続的に定着を図りましょう。

<学習活動のきまりの示し方 例>

- ■学級の実態に合わせて、その学習活動において、何をどの ようにすればよいのかを端的な表記で掲示する。
 - ・友だちの考えと比べて発言しよう。「~さんの意見に賛 成(反対)です。その理由は、~だからです。」
- ■発達段階に応じて、言葉の指示だけでなく、絵や文字を組 み合わせてわかりやすくする。



きまりの掲示(小学校)

学級生活のきまりをわかりやすく定めて指導している。 (時間のきまり、清掃や昼食時のきまりなど)



時間を守って行動できない、清掃や昼食時の係がうまくできない

配慮を要する児童生徒にとって、何をどうしたらよいかわからない生活状況は、居 心地が悪く不安を感じさせます。また、トラブルの要因にもなり、生活を困難にしま

言葉の指示だけでは伝わりにくい児童生徒に対しては、学級生活のきまりをわかり やすく伝えることが必要です。学級全体にとっても、必要なきまりを振り返りやすく なるため、安心できる生活につながり、生活の質の向上が期待できます。

小学校では低学年のうちから、中学校、高等学校では1学年の早いうちから、継続 的に定着を図りましょう。

<学級生活のきまりの示し方 例>

- ■学級の実態に合わせて、その生活行動におい て、何をどのようにすればよいのかを端的な表 記で掲示する。
 - ・授業3分前に、着席・学習準備!
 - ・教室清掃の手順(1窓開け 2はく 3ふく 4 机運び)
- ■発達段階に応じて、言葉の指示だけでなく、絵 や文字を組み合わせてわかりやすくする。



当番表の掲示(小学校)

①②について、児童生徒の実態を振り返り、必要に応じて見直しを 図りながら指導している。



きまりが守られていない、そのきまりは身についたがまだ課題は残っている

児童生徒の実態は変化していきます。①②については、成果が出ている場合とそう でない場合があります。定期的(1日、1週間、1ヶ月、学期ごとなど)に、児童生 徒の定着の様子を把握することが大切です。

きまりを指導していく過程において、児童生徒とともに、きまりの評価と見直しを 意識しながら進めてみましょう。

<きまりの評価と見直し方 例>

■ | 成果あり | ➡ 決まりの継続

決まりの終了

次の段階へ移行

■ 成果なし ⇒ 決まりの継続

決まりの修正

2B話し合いのルール

目的: 声なき声や少数意見を尊重し、みんなで最善の道を探る。 声の大きいものの意見や、わがままな意見が常に通ってしまって は話し合いではない。 全員が素直に意見を伝えあえる場にしよう。

- ① 積極的に参加する。
- ② 気兼ねなく話せる雰囲気をみんなで創
- ③ 独りよがりの意見や感情的な意見は慎
- 持論の押しつけや、何でも反対すること **IdNG**。

見直しを重ねたきまりの掲示(中学校)

担当教科の学習活動のきまりは、学級・学年・学校のきまりを踏まえて、 わかりやすく定めて指導している。

教科担任



担当教科の学習のきまりを定めたが、①③と同じように児童生徒が困っている

궏

教科担任は、学級の実態や学級担任の意図を十分に把握した上で、教科の特性に合 わせた学習活動のきまりを考えることが大切です。

<中学校や高等学校>

学級担任と教科担 任の学習活動のきま りが異なることによ り、生徒が迷う場合 も考えられます。

年度当初や日頃の 情報交換を密にする 必要があります。

<小学校>

学級担任がほとん どの教科の授業を受 け持ちます。

教科担任は、学級 担任に授業中の児童 の様子を伝えながら 指導をしていく必要 があります。

美術の学習とはどんなもの?



小学校の『図画工作』が、中学校では『美術』になります。でも、けっして難しくな るということではありません。内容は、図画工作よりも専門的になっていきますが、み なさんの年齢に合わせた表現方法を学ぶので心配はいりません。よりいっそう新しい美 を見つけ、追求していくことができます。芸術家と呼ばれた人たちの心境に近づく学習 もしていきます。

美術の学習を通して、あなたの持つ感性をみがき、自分のよさを線や色、形や言葉で 表現していきましょう。

◇表

画 目に見えるもの、心の中で 絵 考えているものを平面に表す。 デザイン 目的や使いみちに合わせ て絵や図で表す。

刻 目に見えるもの、心の中で 考えているものを立体に表す。

芸 目的や用途に合わせて生 活に役立つものをさまざまな素材 で表す。

◇鑑

賞 作品について意見を出し 合ったり、芸術家の作品を見て美意 識を高め、創造のヒントにする。

美術 教科の約束

- 1 授業準備をしっかりとする。(持ち物)
- 2 毎時間のめあてを確認する。
- 3 表現は、頭と心を働かせて手を使う。
- 4 個人表現は集中、グループ学習は協力。
- 5 道具をていねいに扱うこと。
- 6 自分の作品に責任を持つ。(期限厳守)
- 7 他の人のよさを認めて自分に生かす。

◎あなたが図画工作ですき(得意)だったことと、美術でがんばりたいことを具体的に書きなさい

場3 関係づくり

お互いが支え合える学級づくりのためには、配慮を要する児童生徒だけでなく、すべての児童生徒に「困っていることを教師や友だちに伝えることができる」という安心感を持たせることが必要です。「ともに考えよう」、「ともに助け合おう」を合い言葉に、児童生徒同士の関係づくりを行っていきます。

問題行動のように見える児童生徒の言動への対応については、その背景を多面的に捉えることが求められます。そのためには、児童生徒のありのままの姿を肯定的に受け止め、気持ちに寄り添います。児童生徒に自分を見つめる機会をつくり、自己理解や他者理解を深められるようにします。児童生徒一人一人が、自他のよさや苦手なことを知った上でかかわり、友だちとのよりよい関係づくりができるように支援していきましょう。

(で) 児童生徒の困っている状況 「To UDの視点による支援や配慮のポイント

① 児童生徒の理解、児童生徒同士の関係の把握のために、観察・記録を 大切にしている。



個々に問題を抱えている、友達関係のトラブルが多い、十分に力を発揮できないでいる

学級担任にとって、学級の特徴を客観的に捉えられない場合や、個人や学級の様々な情報を日常の指導に活かしきれていないと感じる場合があります。下の表のような方法で、児童生徒一人一人の情報を総合的に把握・分析し、学級全体の特徴や傾向を捉え直してみましょう。特に行動観察や聴き取りでは、日々の記録を取りながら継続的な取組みが大切です。

<実態把握の主な内容 例>

基本情報	学習面	生活面	その他
・家庭環境、生育歴、	·全国標準学力検査	・学級集団アセスメント	・特別な支援が必要な
既往歴	(NRT)	(Q-U)	児童生徒の気づきの
•行動観察(学習場	・各教科の成績	・生徒指導用検査	ためのチェックリス
面、生活場面)	・各教科のノート	・道徳性検査	ト(山形県)
・聴き取り(本人、保	・作文、作品	・進路適性検査	・心理検査
護者、他教員)			

② 児童生徒同士が学級のことや友だちのことについて話し合える場をつくる など、かかわり合える工夫をしている。



協調性がない、学級の意見がまとまらない、自分の考えや思いを発表できずにいる

学級のことや友だちのこと、学級の課題などについて、関心がない、学級全体の話し合いで解決したいと思うような雰囲気が育っていないなどの要因が考えられます。

心地のよさにつながります。

話し合いの前には、自分たちの生活をよりよくしたいという目的を持たせ、話し合いの方法などを確認しておきます。

話し合いの場面では様子を見守り、その後も児童生徒同士がしっかりとかかわり合えるように、教師自身がつなぎ役になることも大切です。



生徒と教師の話し合い(高等学校)

③ 時・場・相手などに応じたコミュニケーションの仕方について指導している。



友だちにどうかかわればよいかわからない

P 児童生徒を取りまく人間関係が希薄になってきていると言われる今、よりよい人間関係を築くための知識やスキルについて指導することが必要になってきています。

教師自身がモデルを示しながら、児童生徒のできている点を認め、学級に広げていきます。発達段階に応じて、計画的に、以下のような指導を進めてみましょう。

<ソーシャルスキルトレーニング(SST) 例>

- ■内容 ・自己表現 ・感情のコントロール
 - ・他者理解 ・集団参加
- ■方法 ・絵や文章による状況やスキルの理解
 - ・ロールプレイなどによるリハーサル
 - ・ゲームを通したグループ体験

9月18日 3種類の話し方

例 A先輩

「昨日貸したボールペン返してくれ。ないから不使でさあ。」 自分

______ (あれ?昨日返したはずだけど。先輩のかんちがいだけどな。)

1)(攻撃的)

昨日返しましたよ。<u>自分でどっかにやったんじゃないですか。</u> (余計な一言、関係悪化)

②(非主張的)

え? あ、はい。ちょっと探してみます。 (時間が経ち、返したと言いにくくなってくる 後日、先輩から「だったら早く言えよ。」と言われる。)

③ 事実 + 理由・気持ち + 提案 ()+()+()+(

自己表現スキルの問題ワークシート(高等学校)

④ 児童生徒の問題やトラブルについて、本人又は保護者との相談を通し、 その望ましい在り方を指導している。



友だちを傷つける言動が多い、反抗的な態度が見られる、指導しても問題が解決しない

[2] 該当する児童生徒が「〜しようとしない」と捉えるのではなく、「〜がまだ学習されていない」状態、あるいは「誤った対応を学習してしまっている」状態にあり、「できていない」、「やり方がわからない」と捉える視点が必要です。また、担任一人で問題を抱え、判断するのではなく、校内での検討を通して指導にあたることが大切です。

<該当する児童生徒へのかかわり>

児童生徒の自尊心を尊重し、共感的な立場で相談を進めながら、良好な人間関係をつくり保つための知識やスキル(③など)について、より具体的に教えていきます。

特に配慮を要する児童生徒の場合には、問題の状況や要因を丁寧に把握し、苦手な面を十分に受け止めた上で、長所を活用した解決方法などについて一緒に考えていきます。

<保護者へのかかわり>

現在の課題を明確にし、長期・短期の目標を設定して、 学校や家庭での支援内容について共通理解を図ります。で きている点やこれまで頑張ってきた経過をしっかりと認 め、ともに児童生徒を支えていく意思を共有することが大 切です。



⑤ 教科のねらいを達成するために、学級ごとの特性を把握して指導している。

教科担任

個

個々に問題を抱えている、友達関係のトラブルが多い、十分に力を発揮できないでいる

学級の個性や雰囲気は、児童生徒一人一人の特性や興味・関心、リーダーの性格、男女比や人間関係、担任の影響など、様々な要素の相互作用により育まれます。教科担任は、そうした学級の特性をよく把握した上での指導を心がけることが必要です。

年度当初、学級担任と話し合い、学力の傾向や人間関係の特徴などを十分に把握するようにします。その後も情報交換を活かして、学習形態やかかわり方などを工夫し、教科のねらいの達成に近づけていきましょう。



教科担任の打合せ(中学校)

4 授業の構成

校種や学年、教科の特性によって、有効な授業の組み立て方は異なります。しかし、毎回授 業の流れが変わったり、教師の思いだけで授業を組み立てたりすると、児童生徒は、不安を感 じて集中できなくなる場合があります。学級のすべての児童生徒が、主体的に授業に取り組 み、「わかる、できる」を実感できるような授業の構成の工夫が求められています。

🦥 児童生徒の困っている状況 📑 UDの視点による支援や配慮のポイント

① 単元や本時の初めに、学習の流れを提示し、見通しを持って取り組めるように している。



積極的に活動していない、集中が持続できない、学習活動が遅れる

配慮を要する児童生徒にとって、1時間の学習がどう進むのかがわからない状態は、集中力が 持続しない要因になる場合があります。

他の児童生徒にとっても、安心して学習に取り組むことができるようにす るために、必要に応じて、学習の流れの見通しを持たせることが有効です。

<学習の流れの提示 例>

- ■授業の初めに、大まかな1時間の学習活動の流れについて、言葉での説明と ともに、見てわかる板書や掲示を行う。
- ■単元で目指す目標や学習活動の流れについて、掲示や紙面での配付を行う。
- ■授業の途中での確認や終末での振り返りに役立てる。

教科書、ノートやファイル、学習用具の準備について指導している。



授業ごとに使うものが準備できない、忘れ物が多い



授業で使うものの準備が整っていることは、学級のすべての児童生徒に とって、安心して授業を受けられる条件の一つとなります。

<授業で使うものの伝え方 例>

- ■次時の授業で使うものについて、前時での指示や前日の連絡を丁寧に行う。 必要に応じて板書したり、紙面に印刷して配付したりする。
- ■単元全体や1週間を通して使うものについて、あらかじめ伝えておく。



2 課題

4 発表

5 まとめ

練習

考之る

導入では、興味・関心を高め、動機づけを図る工夫をしている。 **3**



授業に集中できない、課題に入る前に意欲をなくしている、すぐに課題に取り組めない

配慮を要する児童生徒に限らず、まだ学習する心構えができていないまま、あるいは興味を 持てないまま授業が進んでしまったことが、問題の要因となっている 場合があります。

発達段階や教科の特性に合わせた導入の工夫を行い、その後、意欲 的に学習に取り組めるようにする必要があります。

<導入の仕方 例>

- ■「おもしろそうだな」、「もっと知りたいな」、「なぜだろう」と思え るような話題を投げかけたり、教材・教具を提示したりする。
- ■前時までの学習内容を想起させ、本時の意欲につなげる。
- ■本時に必要な既習事項を復習問題で確認する。



わかりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決のための 思考の手がかりを持たせている。



何をすればよいのかわからず戸惑っている、教師の支援があるまで取り組めない

課題を提示する際には、児童生徒が、何について考えればいいのかがわかる文章で伝えること が必要です。自力解決の前には、何を手がかりにして思考すればいいかを考えさせ、様々な意見 を引き出します。児童生徒が主体的に問題解決に取り組む授業づくりを進めましょう。

<思考の手がかりとなる学習活動 例>

- ■教科書や資料などを調べる。 ■既習事項を活用する。
- ■これまでの経験をもとにする。 ■友だちと話し合う。
- ■絵や図で表して考える。 ■他の例と比較する。

れば、分母がちがう分数の まがてきるか

(5) 展開では、主体的な学びを保障するための学習活動の時間配分を工夫している。



十分に力を発揮できないでいる、時間内に問題を解決することができない

1時間の授業は、様々な学習活動で構成されます。それぞれの学習活動に ついて必要な時間の配分がうまくなされていないことが、要因となる場合が あります。



<時間配分の仕方 例>

■指導内容を焦点化し、学習内容を精選する。 ■学習活動の配列を吟味し、適当な時間を調整する。

⑥ ペア学習、グループ学習、一斉学習など、ねらいに応じて様々な学習の形態を 工夫している。



自分の考えや思いを発表できずにいる、積極的に活動していない

児童生徒の興味・関心、理解度に合わせて、学習の形態を工夫す ることで、「わかる」から「よくわかる」を促すためのかかわりが生 まれます。

発表に自信がなかったり授業に受け身だったりする児童生徒に、 積極的に学ぶ姿が期待できます。



<ペア学習やグループ学習でねらうカ 例>

■友だちから学ぶ力 ■友だちに言葉で伝える力 ■話し合う力 ■協力して取り組む力

集中力を高めたり気分を切り替えたりする活動を取り入れるなどの工夫をしている。



授業の途中で集中力が切れてしまう、授業に参加しているが能率が上がらない

ストレス耐性が低い児童生徒には必要な支援ですが、学級のす べての児童生徒に対しても、以下のような活動を、個人はもちろ ん、ペアやグループの形で取り入れていくことが効果的です。



<集中力を高めたり気分を切り替えたりする活動 例>

■作業 ■発表 ■音読 ■板書 ■その他動作を伴う活動

まとめでは、「わかった」、「できた」という満足感・達成感を実感できる活動を工夫している。



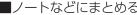
授業のまとめを理解していない、問題を解決した喜びが少ない

□ 理解の定着の仕方は児童生徒によって異なります。学級の実態 に合わせて、わかったことをまとめる活動を設定し、一人一人に 学びを振り返らせ、満足感・達成感を実感できるようにします。

<まとめの活動 例>

■ノートなどにまとめる ■確認問題を解く ■発表し合う





温屋 5 教師の話し方、発問や指示

学習や生活の場面で、教師の児童生徒への働きかけの大半は、「話すこと」です。しかし、人はそれぞれ話し方に何らかの癖を持っています。それが授業の中で無意識に出てしまうことで、児童生徒に話の内容が伝わりにくくなることがあります。

わかりやすく話をするポイントとして、「ゆっくり」、「短い言葉で」などが挙げられます。これらをしっかり意識し工夫することで、学級全体が「わかる」授業につながると考えられます。

できるだけ多くの肯定的メッセージを伝えていくことで、児童生徒の授業に対する意欲を高めていきましょう。

グ 児童生徒の困っている状況 『音 UDの視点による支援や配慮のポイント

① 児童生徒の頑張りを認め、肯定的な表現で話しかけている。



自分の考えや思いを発表できずにいる、自分勝手な言動が見られる

学級のすべての児童生徒の気持ちや頑張りを受け止め、安心して学習できる雰囲気をつくることが必要です。学習活動の結果だけでなく、結果に至るまでの過程を認めるなど、プラスの声がけを意識して行いましょう。

<自分の考えや思いをうまく言葉で伝えられない児童生徒に対する支援 例>

- ■待つことを基本としながら、必要に応じて、教師が児童生徒の言葉を補ったり代弁したりする。
- ■「Aさんの考えに、つけ足しの意見はありませんか?」などと発問し、友だちの思いを推察させて 意見をつないでいく。

<落ち着きがなく、私語が多い児童生徒に対する支援 例>

- ■「おしゃべりしないで。」と直接注意をするのではなく、「意見がある人は発言してみましょう。」などと肯定的な表現に言い換えた形で、学級全体に声がけする。その中で、その児童生徒自身に行動調整を促す。
- ■「静かにしなさい。」と直接注意をするのではなく、「Bさんは、相手の話をよく聴いてくれるから、話しやすいよね。」などと、モデルとなる友だちの行動に注目させ、その児童生徒を含めた学級全体の気づきを促す。

② 話し始める前に、興味を引く工夫をしている。 (タイミング、立つ位置、前置きなど)



話を聞いていない、話の内容を理解していない、積極的に活動していない

『 どの児童生徒も、聞くための構えが十分にできていない状態では、話の内容がうまく頭の中に入らず、聞き落としてしまうものです。話す前に、以下の点を意識してみましょう。

<興味の引き方 例>

- ■児童生徒の様子を見ながら、話し始めるタイミングを計る。
- ■今行っている活動をいったん止めさせてから、話し始める。
- ■注目を集めるために、指導の場面に応じて、立つ位置を変える。
- ■「大事なことを言います」、「これからすることを言います」な ど、前置きをしてから話す。
- ■表情や視線を工夫して、児童生徒への称賛や注意のメッセージを 伝える。
- ■配慮を要する児童生徒には、言葉だけでなく身ぶりなどをつけながら話す。



③ 全体への発問や指示、個別の声がけや確認などの支援の仕方を工夫している。



発問を理解していない、指示と違う活動をしている、十分に力を発揮できないでいる

児童生徒の「学び」は一人一人異なります。また、授業中に抱く「思い」も違っています。そうした児童生徒の特徴をつかんだ上で、全体への発問や指示を行い、適宜個別の声がけや確認を取り入れていく必要があります。

一人一人に対する声がけや確認は、学級のすべての児童生徒に対して、安心感を与える支援になります。

<全体への発問や指示、発言の取り上げ方 例>

- ■発問、指示、説明をバランスよく、効果的に組み合わせ、考えを広めたり深めたりする。
 - ・発 問 に 偏 っ た 授 業 の 問 題 点 → 考える時間を確保する分、授業がなかなか進まない
 - → 一部の答えられる児童生徒だけで授業が進む
 - ・指示や説明に偏った授業の問題点 → 受け身になりがち、集中力が続かない
- ■児童生徒が発表した後、「今の意見についてどう思いましたか。」などと投げかけ、友だちの発表に対して傾聴する習慣を育てる。意図的な指名などにより、一部の児童生徒だけではなく、多様な考えを引き出せるようにする。

<全体と個別の支援の組み合わせ方 例>

- ■問題を提示した後、必要に応じて机間指導を行う。個別に声がけしながら理解の状況を確認し、必要な支援をする。
- ■大勢の前では緊張してしまう児童生徒に対しては、「ここはいい考えだね。」などと声がけし、自信を持たせて発表を促す。
- ■今、どこをどのように学習したらよいのかわかっていない児童生徒に対しては、「ここをこんなふうに考えてみよう。」などと声がけし、学習への意欲を喚起する。





④ 児童生徒にわかりやすい発問や指示になるように工夫している。



発問や指示をよく理解していない、学習活動に取り組めない、十分に力を発揮できないでいる

『全日で指示は、一文が長いと内容が伝わりにくく、どの児童生徒にとっても、混乱の要因となります。発達段階に応じて、できるだけ簡潔で、具体的な表現を用いた発問や指示を行うことが、「わかる」授業につながります。

<わかりやすい発問や指示 例>

- ■一文で一つの動作ができる指示をする。 「問題集を出しなさい。30ページを開きましょう。10時までに書きま しょう(時計に注目させる)。始めなさい。」
- ■抽象的な表現ではなく、具体的な表現で指示する。
 - 「しっかりできましたか。」→「特に、~の点はできましたか。」
 - 「ちゃんと座りましょう。」→「椅子に深く腰をかけて座りましょう。」
 - 「ここを見てきてください。」
 - →「この文章が間違っていたら書き直してきてください。」



温26 板書、ノートやファイル

授業の流れや内容の理解を図り、児童生徒の思考活動を助けるためのツールの一つが、板書です。わ かりやすい授業づくりのためには、板書を構造化するなどの工夫が求められます。

また、児童生徒は、板書をノートに取りながら、自分や友だちの考えを明確に捉えたり修正したりし て授業の理解を深めようとしています。学習の定着を図るために、教科ごとのノート(学習で使うプリ ントやワークシートを含む)やファイルについて指導することが大切です。

児童生徒の困っている状況 ■ UDの視点による支援や配慮のポイント

授業の流れや内容がわかるように板書の構成を工夫している。



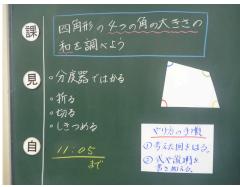
ノートがしっかり取られていない、板書した内容を理解していない

本時の指導で、何をどれくらい板書に盛り込むのか、事前に計画する必要があります。その上で、実際 の授業での児童生徒の発言などを活かし、状況に合わせた板書構成にしていくことが大切です。 板書内容を精選し、児童生徒にとってのわかりやすさや、ノートへの取りやすさを工夫することで、よ り確かな学習の定着が期待できます。

<板書の構成の仕方 例>

- ■黒板のどこに、どんな内容を配置するか決める。
- ■黒板を分割してノート1ページ分と対応させるなど、ノートに取りやすい板書にする。
- ■導入、展開、まとめなどの授業の流れに沿って、学習内容の要点を板書する。
- ■箇条書き、キーワード、キーセンテンスなどで、短くまとめて板書する。





算数の板書(小学校)

教室の後ろの児童生徒からも見えるような文字の大きさ、行間にしている。



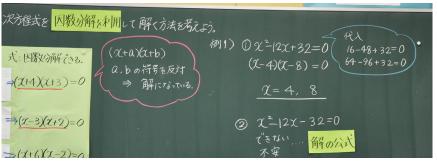
板書の文字を読みにくそうにしている、ノートがしっかり取られていない

すべての児童生徒の座席から黒板までの距離や、座席から見える角度や光の反射などによる見えにくさ について配慮する必要があります。

適度な文字の大きさや行間の幅などを意識した板書を心がけることで、改善を図ることができます。



国語(小学校)

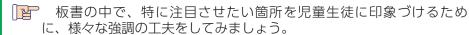


数学(中学校)

③ 大事なところがわかるように工夫して示している。 (チョークの色、ラインや囲み、矢印や記号、掲示物の活用など)



板書の注目すべき箇所に視線が向けられていない、本時の学習内容を理解して取り組めていない



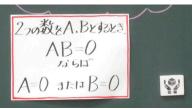
色の見え方には個人差があり、色覚に不安を持つ児童生徒がいる場合もあります。色の判別を要する表示や掲示物を提示する際には、誰もが識別しやすい配色で構成することが大切です。

<チョークや掲示物の活用 例>

- ■文字の表記には、主に、白と黄のチョークを使う。
- ■白と黄以外のチョークは、主に、ラインや囲み、矢印、色取りなどに使う。文字の表記に使用する場合には、太く大きくはっきり書くようにする。あまり様々な色を使いすぎない。
- ■チョークの用途を決める。
 - ・黄チョーク→キーワード
- ・赤チョーク→ラインや囲み・囲み→課題やまとめの文章
- ・ライン→キーセンテンス ■端的な強調の工夫をする。
 - ・矢印→関連づけ
- ·記号→◎(成果)、△(課題)
- ■移動や貼り替えが可能なカード、マグネットシート、模造紙などを 利用する。



算数(小学校)



数学(中学校)

④ ノートに取りやすい板書の仕方を工夫している。(スピード、タイミング、間など)



ノートがしっかり取られていない、書くことに集中していて話を聞いていない、挙手が少ない

・配慮を要する児童生徒には、教師が話をしながら板書をすると、 教師の話を聞くことと、板書をノートに取ることのどちらを行えば よいのかが判断できなくなる場合があります。

発達段階に応じて、教師が板書するスピード、タイミング、間などを工夫することで、児童生徒がノートを取りやすいリズムをつくります。また、書くことに余裕ができれば、聞くこと、考えること、発言することなどの活動を保障することにもつながります。

学級全体にとっても、学習活動にめりはりをつけ、より積極的に 学ぶ姿が期待できます。



5 ノートの取り方やファイルの整理の仕方を指導している。



ノートを取る習慣が身につかない、 ファイルにプリントが整理されていない、 その後の学習に十分に活かされていない

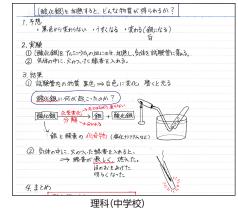
配慮を要する児童生徒は、ただノートに取ることで精一杯だったり、取れば学習ができたと錯覚したりしている場合があります。

発達段階に応じて、板書の内容と一致した、わかりやすい ノートの取り方ができるように指導することが大切です。

また、ノートやファイルの持つ4つの機能(練習・備忘・整理保存・思考や探究)を意識させ、目的に応じたノートやファイルになるように、以下のような指導で、繰り返し定着を図りましょう。

<ノートやファイルの指導 例>

- ■学年や教科に応じたノートやファイル、筆記用具の選び方
- ■見本となる児童生徒のノートやファイルの紹介
- ■定期的なノートやファイルの点検



Chapt	er 4 I	Am a "Coral Man" by kaji Kinjo
1 cora	/	coral cotal coral coral cotal
unus	ual v	unusual unusual unusual unusual unusual
shine		Shine Shine Shine Shine shine
dove		dove dove dove dove
shoc	k v	shock shock shock shock
mari	ne v	motine marine matine matine matine
reef	_	reef reef reef reef
2 expe	rt v	expert expert expert expert expert
tria		trial trial trial trial trial
érro	r, .	error error error error error
	plan+	transplant transplant transplant transplant
poun	9 -	pound pound pound pound pound transplan
laugh	ter v	laughter laughter laughter laughter laughte
Stan		Standard standard Standard Standard Standard
	nical -	
term		
	enly	properly properly properly properly

UR7 教材・教具

「わかる、できる」授業を目指すためには、多様な学び方をしている児童生徒に配慮し、学級の実態に合わせて、教材・教具の効果的な選択や有効な活用を行うことが必要です。教材・教具の提示の仕方や、材料、道具、用具の準備、自作プリントやワークシートの工夫を行うことで、児童生徒にとっての学びやすさにつながり、より学習効果を高めることが期待できます。

別に対している状況 □ UDの視点による支援や配慮のポイント

① 提示する内容をよりわかりやすくするための教材・教具を工夫している。 (具体物・写真・絵・動画、ICT (視聴覚) 機器など)



学習内容の理解が十分でない、興味・関心が薄い、積極的に活動していない

資料を提示する際に、児童生徒の興味を引きつけるためには、どんな教材・教具を用いればわかりやすく伝えることができるかを考えることが大切です。

なお、教材・教具を提示する際には、特に、形・色彩・大きさ・材質・デザインなどに留意しましょう。

<教材・教具の提示の仕方 例>

- ■具体物(実物や見本)を用いて、五感で感じさせる。
- ■拡大した写真や絵を用いて、イメージを膨らませる。
- ■ICT機器やその他視聴覚機器を用いて、視覚情報や聴覚情報を複合的に提示し理解させる。

<ICT機器の活用 例>

- ■実物投影機を活用して、資料や児童生徒のノートなどを拡大して提示する。
- ■WEBサイトを利用して、日頃体験できない内容の動画や画像を見せる。









地図と写真(小学校)

OHP(中学校)

実物投影機(高等学校)

② 児童生徒の発達段階に応じて、材料、道具、用具を準備して活用している。



なかなか活動や作業がはかどらない、扱い方や使用法に手間取っている

「わかる、できる」授業を行うためには、児童生徒の学習に適した材料、道具、用具などの準備が必要です。

それらを教師が準備する場合に は、発達段階や学習課題に応じた配 慮が必要です。

また、児童生徒に準備させる場合には、家庭にも目的や意図を伝えることが大切です。





図画工作(小学校)

③ 学習で使うプリントやワークシートは、読みやすく書きやすいように工夫している。



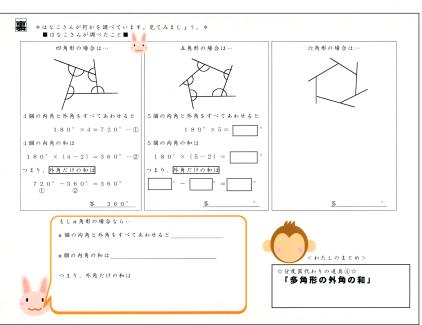
書き方がわからない、書く時間がかかりすぎている、教師の意図と違った内容を書いている

学級すべての児童生徒にとって、読みやすく書きやすいプリントやワークシートになっているかを見直し、 改善を図ることで、「わかる、できる」授業につなげていくことができます。

返りやすくしておくことも大切です。

<読みやすく書きやすいプリントや ワークシートのポイント 例>

- ■板書と一致したプリントやワーク シートになっているか。
- ■紙面のレイアウトは適当か。
- ■問題量は妥当か。
- ■設問の指示や説明はわかりやすい か。
- ■設問に対応した枠になっている か。 (数・大きさ・位置)
- ■文字の大きさや字体に配慮しているか。
- ■単元で使うプリントやワークシートの様式や活用の仕方に一貫性があるか。



黒板を3分割した板書に対応したワークシート(中学校)

④ 児童生徒の実態に合わせた対応ができるような教材を準備している。 (基礎や応用、発展など)



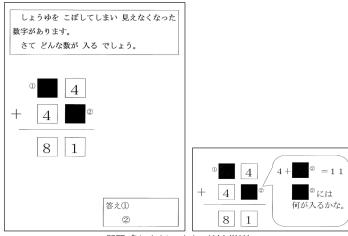
問題が難しすぎてあきらめている、 問題を解き終えて時間を持て余している



' 配慮を要する児童生徒にとって、周囲の児童 生徒と同じ教材では、うまく取り組めない場合 があります。

学級全体においても、児童生徒一人一人の実態を考慮すれば、全員が同じでなく、段階的な教材が必要と考えられる場合があります。

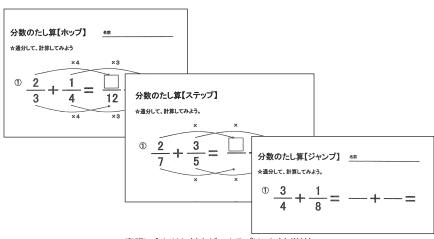
学級の児童生徒の実態に合わせ、複数の課題の設定を吟味した上で、あらかじめそれらに対応した教材を準備しておくことで、改善が期待できます。



問題プリントとヒントカード(小学校)

<児童生徒の実態に合わせた 対応ができる教材 例>

- ■児童生徒の理解度に応じた問題 プリントとヒントカード
- ■基礎となる課題が終わった児童 生徒のための応用プリント
- ■本時の課題が終わった児童生徒 のための発展課題



実態に合わせた対応ができるプリント(小学校)

UDの7つの視点を取り入れた授業づくりで

研究や研修を進めてみましょう

小学校、中学校、高等学校における、本ハンドブックの活用の仕方を紹介します。 学級、学年、教科、学校の実態に合わせ、授業づくりの基礎・基本を確認しながら、 配慮を要する児童生徒はもちろん、学級全体の学びの向上を目指してみませんか。





学級担任・教科担任によるUDの授業づくり

授業に対する課題意識

学力の差、 意欲にも差 がある

最後まで集中力

が続かない

もっと一人一人の 考えを引き出したい

-部の児童生徒だけ で授業が進みがちだ



こうした教師の思いを授業改善に反映させるために

UDの視点を取り入れた授業づくり(その1)

本ハンドブック(裏表紙)の「UDの7つの視点一覧表」を活用して、日頃の授業を振り返り ます。児童生徒の実態、教科の特性、指導場面などに合わせて、授業改善に必要と思われる 視点及び項目を選択し、できるところから「UDの視点による手立て」についてアイデアを 練ります。

- (例) UDの視点6[板書、ノートやファイル」③を参考に、板書の大事なところがわかる視覚的な 提示の工夫を考える場合
 - →「生徒から出された意見を黄色で書き、強調して見せる。」など





学年担任同士・教科担任同士によるUDの授業づくり

UDの視点を取り入れた授業づくり(その2)



その1の取組みについて、情報交換を行い、校内におけ る共通理解を図ります。

UDの視点を取り入れた授業づくり(その3)



その1の「UDの視点による手立て」を授業公開シートに 盛り込み、お互いの授業を参観します。

指導案を作成しない形で、気軽な「ミニ授業研」の実施 ができます。



授業公開シート

期日・学級	平成 年 月 日() 校時 2年 A組
授業者	0000
教科・単元名	数学 「平行と合同」
項目	授業者記入欄 参観者(感想・意見)記入欄
本時の目標	□多角形の1つの外角を、内角の和の 性質をもとに求めることを通して課 題に気づかせる。 □多角形の外角の和が、頂点の数にか かわらず、常に360°であること を導かせる。 □多角形の外角の性質を使って問題を 解決できるようにする。
UDの視点に よる手立て① 学習の見通し の工夫	かわらず、常に360°であること を導かせる。 □多角形の外角の性質を使って問題を 解決できるようにする。 □1時間の学習の流れを掲示する。 □1時間の学習の流れを掲示する。 □以習事項をカードにし、黒板に貼る。 □ 日中を使い、ワークシート等を拡大提示する。 □生徒から出された意見を黄色で書き、強調して見せる。
UDの視点に よる手立て②	□既習事項をカードにし、黒板に貼る。 □OHPを使い、ワークシート等を拡 大規示する。
視覚的な提示 の工夫	□生徒から出された意見を黄色で書き、強調して見せる。
よる手立て③	ロワークシートの構造化(作図や計算 がしやすい紙面)を図る。 口裏表の練習問題プリントを配付す
学習プリント の工夫	ర .
個別への配慮	口個に応じた言葉がけ
その他	



PDCAサイクルによる授業づくりを進めましょう。

尾践前

Plan (計画)

授業に対する課題意識

学習活動

D

の

視点

による

手

<u>17</u>

間は3分です。

1. 既罗事項

2. 課題を

医智事项

て問題を解

外角の

知る。

課題 どう

3. 多角形の ついて調べ

UDの視点を取り入れた授業づくり(その4)

授業改善のテーマの設定

指導案より 本時の指導(抜粋)

主な楽問(○)と指示(◆)

度器代わりの道具①~②を確認しましょう。

れらを使ってQの問題を解いてみましょう。制限

o力を発表してもらいます。(OHPを使って)

2のような色を、内角に対して外色と言います。

(学級、学年、教科、学校) その1で導いた「UDの視点による手立て」 を明記した指導案を用意します。

- UDの視点による手立て (女) 評価(二) ・ワークシートの問題を配付する。 ・「3分では無理」などの声を出させたい (UDの視点取「授業の構成」(Bより) **★OHPを使い、ワークシート等を拡大機** 示しながら新し合う。(UDの理点項 「無
 - ・「UDの7つの視点一覧表」(裏表紙)から、授業改善 に必要と思われる視点及び項目を選択する。
 - ・視点及び項目にそって具体的な工夫や配慮を考え、 指導案(指導観・本時の指導)に盛り込む。
 - ・1時間のどの場面で、どんな支援や配慮を行うのか がわかるようにする。
 - ・校内研究の視点がある場合には、「UDの視点による 手立て」との関連を考えながら表記する。

角形の外角を手際よく求めることができるだろう。 (例)UDの視点4「授業の構成」⑥を参考に、ペア学習などの学習の形態の工夫を考える場合 →「隣同士のペアで、問題の答えを交流する。」など

事前研

UDの視点を取り入れた授業づくり(その5)

ワークショップ型の指導案検討で、授業づくりの意見やアイデアを 出し合います。

相当上の留意点(・)

・医智事項を確認する。

村・飲具①」より)

・「難しい」「面倒」等の声を出させたい。

※KJ法による付箋紙を活用した話し合いが効果的です。 詳細は、県教育センターHPの授業研究ハンドブックを参照ください。





Do(実施)

UDの視点を取り入れた授業づくり(その6)

授業公開シート(※その3を参照)を活用して、参観者の感想や意見を収集します。

※事前・事後研究会の配付資料とするだけでなく、話し合いに参加できない教員の意見を収集できます。

事後研

Check(評価)

UDの視点を取り入れた授業づくり(その7)

ワークショップ型授業研究で、教員同士の 協働性を高め、校内研究の活性化を図ります。



配慮を要する児童生徒 が積極的に発言するように なり、学級全体の学びにも 深まりが見られた。

(40代女性教諭)

UDが中・高の「教科の壁」 を越えた話し合いを可能に! (30代男性教諭)

異教科の教員からの意見は、生徒の感覚に近く、 自分の教科指導を見直す機会になった。(50代男性教諭)



- ・指導案や授業公開 シートの[UDの視点 による手立て」にそっ て、話し合いの視点 を明確にする。
- ・校内研究の視点があ る場合には、「UDの 視点による手立てし の関連を考えながら 協議する。

実践後

Action (改善)

UDの視点を取り入れた授業づくり(その8)

次の授業づくりの計画に、授業実践で得られた成果と課題を活かします。

お知らせ

県教育センターHP から本ハンドブックと ともに、H24報告書を 閲覧することができます。 研究協力校の授業実践 なども紹介しています。

(その1) ~ (その8) 以外にも、学級、学年、教科、学校のニーズに合わせて、取り入れ方を工夫してみましょう。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 授業づくりハンドブック

URL: http://www.yamagata-c.ed.jp



小・中・高 共通

| 複写可 | 本ページをコピーして、日常・単元・本時における学級づくりや授業づくりについて振り返ってみましょう。

	1	教室環境	日常	単元	本時
	_	学級担任			
	1	教室の整理整頓の仕方を決めて指導している。(学級のもの・個人のもの)			
	2	児童生徒の実態に合わせた座席の位置を決めて指導している。			
	3	学習時の視覚刺激の量に配慮している。(前面の黒板とその周囲、壁面の掲示物の精選など)			
	4	一週間や一日の予定などのスケジュールを見やすく掲示して指導している。			
	(5)	急な連絡や予定の変更は、視覚的にわかりやすく伝えている。			
学		教科担任			
	2	児童生徒の実態に合わせた座席の位置を決めて指導している。			
€17 .	3	学習時の視覚刺激の量に配慮している。(前面の黒板とその周囲、壁面の掲示物の精選など)			
級	2	学習や生活のきまり	日常	単元	本時
_11		学級担任			
づ	1	学習活動のきまりをわかりやすく定めて指導している。(「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」など)			
	2	学級生活のきまりをわかりやすく定めて指導している。(時間のきまり、清掃や昼食時のきまりなど)			
<	3	①②について、児童生徒の実態を振り返り、必要に応じて見直しを図りながら指導している。			
•		教科担任			
IJ	_	担当教科の学習活動のきまりは、学級・学年・学校のきまりを踏まえて、わかりやすく定めて指導している。			
•	3	· 関係づくり	日常	単元	本時
		学級担任			
	1	児童生徒の理解、児童生徒同士の関係の把握のために、観察・記録を大切にしている。			
	2	児童生徒同士が学級のことや友だちのことについて話し合える場をつくるなど、かかわり合える工夫をしている。			
	3	時・場・相手などに応じたコミュニケーションの仕方について指導している。			
	4	児童生徒の問題やトラブルについて、本人又は保護者との相談を通し、その望ましい在り方を指導している。			
		教科担任			
	5	教科のねらいを達成するために、学級ごとの特性を把握して指導している。			

	4 授業の構成	日常	単元	本時
Ī	■学級担任 ■教科担任 共通			
	① 単元や本時の初めに、学習の流れを提示し、見通しを持って取り組めるようにしている。			
[② 教科書、ノートやファイル、学習用具の準備について指導している。			
	③ 導入では、興味・関心を高め、動機づけを図る工夫をしている。			
	わかりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決のための思考の手がかりを持たせている。			
	⑤ 展開では、主体的な学びを保障するための学習活動の時間配分を工夫している。			
	⑥ ペア学習、グループ学習、一斉学習など、ねらいに応じて様々な学習の形態を工夫している。			
受	(更) 集中力を高めたり気分を切り替えたりする活動を取り入れるなどの工夫をしている。			
又	⑧ まとめでは、「わかった」、「できた」という満足感・達成感を実感できる活動を工夫している。			
	5 教師の話し方、発問や指示	日常	単元	本品
業	■学級担任 ■教科担任 共通			
	① 児童生徒の頑張りを認め、肯定的な表現で話しかけている。			
	② 話し始める前に、興味を引く工夫をしている。(タイミング、立つ位置、前置きなど)			
	③ 全体への発問や指示、個別の声がけや確認などの支援の仕方を工夫している。			
	④ 児童生徒にわかりやすい発問や指示になるように工夫している。			
`	6 板書、ノートやファイル	日常	単元	本田
. [■学級担任 ■教科担任 共通			
7	① 授業の流れや内容がわかるように板書の構成を工夫している。			
	② 教室の後ろの児童生徒からも見えるような文字の大きさ、行間にしている。			
	③ 大事なところがわかるように工夫して示している。(チョークの色、ラインや囲み、矢印や記号、掲示物の活用など)			
	④ ノートに取りやすい板書の仕方を工夫している。(スピード、タイミング、間など)			
	⑤ ノートの取り方やファイルの整理の仕方を指導している。			
	7 教材・教具	日常	単元	本品
	■学級担任 ■教科担任 共通			
[① 提示する内容をよりわかりやすくするための教材・教具を工夫している。(具体物・写真・絵・動画、ICT(視聴覚)機器など)			
[② 児童生徒の発達段階に応じて、材料、道具、用具を準備して活用している。			
[③ 学習で使うプリントやワークシートは、読みやすく書きやすいように工夫している。			
	④ 児童生徒の実態に合わせた対応ができるような教材を準備している。(基礎や応用、発展など)			